

【優秀賞】

【生命をつなぐ】

常滑市立常滑中学校 一年 上村 莉瑚

私たちが当たり前のように使っている水ですが、皆さんはどのようにして安定した水を使えるようになったのかを知っていますか？

愛知県では、一九四七年に長期にわたる日照りの影響で、ため池の水がなくなり作物が枯れるなどの被害がでました。知多半島に住んでいた人たちは水に困り、どうにかできないかという悩みを抱えていました。

そのため知多半島の人たちは、「木曾川から水がひけたら…」という夢がありました。

そして、一九四七年の大干ばつをきっかけに夢を実現させようと立ち上がり、国家事業として愛知用水への第一歩をふみ出しました。

ですが、ある条件がありました。それは、「五ヶ年で事業を完成させること。」「海外専門家の技術援助を求めること。」といったものでした。

一九五七年に工事が始まりました。すぐれた土木技術と最も新しい土木機械を使い、わずか四年で工事が終わり、一九六一年に愛知用水が完成しました。

こうした出来事によって、一九六一年九月三十日に木曾川の水が愛知用水を流れ、知多半島に届くという歴史的な日を迎えました。

私たちが日々安定して水を使えるのは、自然災害を通してたくさんの人たちが暮らしやすい世の中にするために工夫をしたことによって、今の快適な暮らしがあるということがわかります。

水は、世の中で当たり前のように使われています。農業では、作物に与える水。漁業では魚が生きるために必要な水。そして私たちは飲み水や料理、お風呂やトイレなどに使われており、生活には欠かせない水です。

では、もし地球から水がなくなってしまった場合どうなってしまうのでしょうか。

水がなくなってしまうと、陸地が三倍になり、人が住む土地が増え、

遠い国に陸地で行けるようになるというメリットもあります。ですが、水がなくなると空気がうすくなり、住みにくくなるというデメリットも多いです。例えば、水蒸気がないので雨が降らなくなり、作物が枯れ大飢饉になる可能性があります。さらに海の幸が取れなくなるとことは、出汁が作れず日本の食文化にも影響がでます。このように水がなくなることで、住める土地が増えたりと私達にもいいことがあります。地上にいる生物が絶滅するなどの大きな被害がでます。

なので、このようなことにならないようにするために水を大切にすることがとても重要ということが分かります。

私は、いつも「いくらでもあるからちよつとくらしいいや。」と水を無駄使いしていました。ですが、今回の「水の作文コンクール」を通し、いかに水が大切なのかということを知りました。水には限りがあり、この先も快適な暮らしを続けていくために、生きていく上で必要なものです。水をとだえさせないために、お風呂の水を洗濯に使用したり、お肉などが入っていた発泡トレーを洗浄する時に再利用して、水の使用量を減らすことにより、水を大切にしていきたいなと思いました。

皆さんも普段当たり前に使用している水のことを、改めて家族の方とも話をし、これから出来ることを見つけてもらえればいいなと思います。